

[第一号議案]

平成 22 年度事業報告(総括)

3月11日に発生しました三陸沖を震源とする東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。この度の地震によりこの地域に生活拠点を持つ多くの会員に被害がおよんでいることから、日臨技からのお願ひ及び協力要請として、会員相互の扶助を目的に募金要請がありました。これに対して岐臨技は、平成 23 年度岐臨技会計より支出して義援金とする予定にしています。

平成 21 年度第 2 回定期総会にて平成 22 年度事業計画について総括、各部長からの事業計画案が示され承認されました。また、この総会では、会費の改正について審議頂き、岐臨技運営を適正にするために、5,000 円の値上げを承認していただきました。

任期満了に伴う役員改選は、役員推薦規程に基づいて各地区より選出され承認されました。さらにこの総会では、外部監事の選出も承認頂きました。平成 22 年度予算案については、十分検討する時間を頂くために平成 22 年度第 1 回総会に再度議案として提出し、審議の結果承認されました。

学術部門では、各研究班を中心に事業計画に基づいて実施されました。また、学会関連は、第 59 回日本医学検査学会(平成 22 年 5 月 22 日～23 日 和歌山県臨床衛生検査技師会担当:神戸市で開催)、第 49 回中部医学検査学会(平成 22 年 9 月 18 日～19 日 石川県金沢市:金沢都ホテル)で開催されました。会員の多数の参加がありました。

岐臨技の精度管理調査事業は、1 回の精度管理調査と 2 回の標準化調査を実施しました。県内 101 施設のうち半数以上の 57 施設、及び 14 のメーカーの参加がありました。参加施設各位のご協力、ご支援に深く感謝いたします。

日臨技の精度管理調査は、平成 19 年度より全国的な標準化を実現するために基幹施設ネットワークを構築しました。臨床検査データ標準化事業の活動により、全国の施設間検査データの互換性は高まりました。信頼性が十分保証されていると評価できる施設に対しては、「精度保証認証施設」として認定する制度が発足しました。これは、「臨床検査室の精度保証は臨床検査技師が行う。」を目的としています。岐臨技では、11 施設の精度保証認証施設が誕生しました。

会計部門では、平成 22 年度より岐臨技会費を 10,000 円とさせて頂きましたが、後ほど会計部長より報告しますが、平成 22 年度予算に従って運用してきました。その結果、各事業部の節約の努力の結果としてある程度の金額を残すことができました。詳しい報告は、会計部長から報告します。平成 23 年度事業の予算執行状態が、平成 22 年度と同程度で終了するならば、岐臨技会費の在り方を再検討することになります。

渉外部門では、岐阜県臨床検査技師会誌、岐臨技会報を会員への情報提供の手段として取り組み発行しました。資料館については、岐阜医療科学大学で検査機器の展示を行って運営しました。

岐臨技ホームページは、会員のみならず一般国民向けの広報を拡大するとともに、日臨技ホームページとのリンク及び関連情報を掲載した。学術カレンダーも含めて会員の皆様にとって最新の情報となるよう常時更新し、運営しました。本年度は、精度保証事業部ページを開設し、フォトサーベイ CD、問題集、報告会、総括集を総合的に掲載しました。岐臨技携帯ホームページも充実したものとなり、携帯電話からも岐臨技情報を得ることができます。

以上、主な事業について報告しました。詳細については各担当部門から報告します。